

# 伊方原発をとめる 大分裁判の会ニュース

第31号  
2025/7/30

発行：伊方原発をとめる大分裁判の会  
〒870-0034 大分市都町2丁目7-4  
徳田法律事務所気付  
TEL 090-7153-8775(連絡先 森山賢太郎)  
<https://anti-ikata.org>  
E-mail:info@anti-ikata.org



## 第3回控訴審8月18日参集を！

### 悲しみを乗り越え、共に歩もう

5月31日に原告団共同代表である中山田さつきさんを病で失いましたが、彼女は私たちの進む道をしっかりと強く示してくれました。昨年12月16日第1回控訴審では、大分県に暮らす生活者・農業者の立場から「伊方原発再稼働を許さない」思いを裁判官たちに真正面から訴えました。私たちも続けていきましょう。

皆さん！福岡高裁に傍聴、裁判の応援に参加しましょう。1人でも傍聴の応援が多いと、四電、裁判官へのプレッシャーになります。それが大切なことです。



傍聴参加を呼びかける松本代表

### 地震、火山噴火、津波は予知できない

昨年春から伊方原発近く、日向灘で地震が多発し昨年8月9日には“南海トラフ臨時情報”が発せられました。今年はトカラ列島の地震が頻発し、住民避難が強いられ、津波の発生を警戒する状態がずっと続いています。新燃岳（宮崎、鹿児島県の県境）の火山活動が活発化し火砕流発生の報道もあり、桜島の噴火活動も例年を上回って活発な状態が続いています。マグマ溜まりの状況変化など、気象庁は的

確な予測をすることができません。これが地震、火山噴火、津波予知についての今日の科学の実情です。一昨年、能登半島では地震が頻発する事態がずっとつづき、津波、地震M7.9に襲われたのです。こんな日本列島に54基の原発があるのです。どこで事故が起こってもおかしくありません。

### 四電、乾式貯蔵開始－溜め置かれる核のゴミ

四国電力は7月1日、伊方原発敷地内に使用済み核燃料を一時保管する「乾式貯蔵施設」が完成し、運用を始めたことを発表しました。

背景には、「使用済み燃料プール」の9割以上が埋まってしまう、このままでは伊方3号機の運転ができなくなるからです。青森県六ヶ所村再処理工場に持って行くところが、その稼働が見通せないからです。四電が先陣をきり、他の電力会社も敷地内に同様に建設の動きをしています。

四電は「六ヶ所村再処理工場が稼働するまでの間に溜め置く」としていますが、実は核燃料サイクル計画はもはや破綻していると言ってよく、六ヶ所村でいつまで経っても処理することはできず、ここ伊方が半永久的に使用済み核燃料の置き場所にされてしまう可能性が否定できません。

乾式貯蔵は福島でおきたような“電源喪失”状態になっても下図のような金属製キャスクに入れて空冷方式なので大丈夫、というのが謳い文句です。しかし、MOX使用済み燃料はたいへんに温度が高いので、数十年から100年間、水冷の使用済み核燃料プールで冷やした後でなければ乾式貯蔵に移行できない、と指摘されています。外観や会社の説明から騙されるわけにはいきません。

8月18日（月）14:30～  
第3回控訴審口頭弁論

場所：福岡高等裁判所 1階101法廷  
集合：13:30 福岡県弁護士会館玄関  
報告会：16:00 福岡県弁護士会館  
\*貸切バス（大分市、別府市経由 往復5000円）  
を運行します。詳細別紙参照



外観



中に並べられる金属製キャスク

# 2025年度活動方針

節目の第10回となる総会は、裁判の舞台が大分地裁から福岡高裁に移って初めての会であり、どのように高裁のたたかいを進めていくかが大きな議題でした。進行を宇都宮陽子応援団共同代表が行い、議長に中山田昭徳さん（中山田さつきさんの連れ合い）を選任し進められました。松本文六原告団共同代表、徳田靖之弁護団共同代表、奥田富美子応援団共同代表の挨拶を受けました。松本氏は「裁判官たちは私たちの主張に耳を傾けており、希望がもてる。しかし政府は第7次エネルギー基本計画で原発を最大限活用する方向に舵をきりました。青森県六ヶ所村再処理工場が稼働できる見通しがないのに政府・電力会社が固執しているのは我が国の“潜在的核保有”、将来の核兵器保有の狙いがあるのでは」と指摘されました。

徳田弁護士は「松山地裁判決（3月18日）も大分地裁判決同様に、結論ありきで書かれているとしか思えません。結論を先取りしている裁判官たちにどのように対峙していくのか。論理的な積み上げだけでなく、意見陳述を通じて裁判官の心を動かしていくことが重要」と力説されました。

## 1. 控訴審（福岡高裁）の取り組みを充実していきます

- ① 法廷を満席にすることを目指します。貸切バス運行など、参加しやすい工夫をおこないます
- ② 原告の生の声を裁判官に届けるべく、引き続き原告意見陳述が設けられるよう取り組みます
- ③ 口頭弁論終了後に報告会を開催し意思統一をはかります
- ④ 裁判ニュース、ホームページ、SNS、一斉メール等をフルに活用し、裁判の内容を会員に伝えるよう努めます
- ⑤ 高松高裁のたたかい（愛媛裁判の会）および広島高裁のたたかい（広島裁判の会）と連携をとりながら、裁判闘争を取り組みます。脱原発全国弁護団と情勢を共有しながら進めていきます

## 2. 財政基盤を固めます

- ① 新規約の理解をいただき、会費納入をすすめます
  - ア 原告会員について、年会費2,000円納入のお願いを徹底します
  - イ 控訴審原告でない元大分地裁原告は、応援団会員として年会費2,000円納入への協力を働きかけます。控訴審の支援を訴えます
  - ウ 原告会員・応援団会員の会費納入率を向上させるため、納入願いや再納入願いを出します
- ② カンパの募集を行います。カンパをしていただいた方々には適宜ニュースなどを送り、カンパや支持者を増やす努力をします。裁判遂行上、特別な支出が必要になった場合には、事情を説明したうえで、特別カンパの取り組みをします
- ③ 物販カンパの取り組みを行います

## 3. 情宣活動に努めます

- ① 集会、講演会、映画上映会、街頭活動など、小規模でも取り組める企画を考え実施していきます。
- ② 裁判ニュースの定期的な発行を継続します
- ③ インターネットの活用（ホームページ、ニュース・お知らせのNet配信、リモートの活用）をはかります
- ④ 「311いのちのわ」集会に参加します  
2026年3月8日（日）会場未定

## 4. 地域での活動の輪を広げます

（地域活動助成金の活用、事務局員・弁護団の各地域への出向）  
\*地域活動助成金制度は「1地域2万円以内で会場費・講師謝礼・交通費等を補助します。県下各地の活動を活発にするために設けられました」  
制度を有効に活用し、大分県下に伊方原発3号機とめよ！廃炉に！の声を広げていきましょう。

## 5. 他県の訴訟団との交流、情報交換を行い、伊方原発再稼働阻止、抗議の現地行動にも可能な限り参加します

山口裁判（岩国支部）が4月25日結審し、来年2月26日に判決の予定です。勝訴を求め判決日集会に参加します

## 6. 大分県の原子力防災計画の改定を目指して取り組みます

（安定ヨウ素剤を中心に）  
パンフ「大分県の原子力防災」（2025年3月改定）について、課題を洗い出し、県危機管理室に申入れています

◀第10回定期大会報告

一般会計

収入

科目	2024年度予算	2024年度実績	備 考
原告団会費	400,000	358,000	1世帯当たり¥2,000
応援団会費	550,000	294,000	元原告会員の参加が少なかった
カンパ	400,000	1,022,470	グリーンコープおおいたの2年分532,770円を含む
講演会チケット売上	80,000	52,300	岡村眞講演会
応援団等物品販売益	200,000	163,547	ソーメン販売 「いのちのわ」での物販収益
控訴費用負担金	390,000	350,000	納入が2024年4月以降の分
受け取り利子	10	143	
前年度繰越金	855,668	855,668	
合計	2,875,678	3,096,128	

支出

科目	2024年度予算	2024年度実績	備 考
弁護士費用	500,000	500,000	弁護団への謝礼的支払い（報酬ではない）
郵送料	500,000	364,710	裁判ニュース等の郵送
印刷費	140,000	198,416	裁判ニュース等の印刷
賃借料	50,000	27,270	会議室借り上げ
交通費	120,000	177,449	他団体との連携・情報収集 控訴審参加への一部負担
消耗品費	40,000	42,819	封筒の補充
講演会費	200,000	107,423	講師への謝礼・旅費 会場使用料
その他	37,000	46,650	ホームページ維持費 いのちのわ協賛金
資料	10,000	0	
地域活動助成費	100,000	0	
証人出廷費用等	300,000	0	
予備費	878,678	0	
次年度繰越金		1,631,391	
合計	2,875,678	3,096,128	

引当金会計

収入

科目	2023年度実績	2024年度実績	備 考
前年度繰越金	2,210,803	2,210,803	
合計	2,210,803	2,210,803	

支出

科目	2022年度実績	2024年度実績	備 考
次年度繰越金	2,210,803	2,210,803	
合計	2,210,803	2,210,803	

◀第10回定期大会報告

2025年度 予算 (期間 2025年4月1日～2026年3月31日)

一般会計

収入

科目	2024年度実績	2025年度予算	備 考
原告団会費	356,000	400,000	前年度に準ずる
応援団会費	296,000	300,000	前年度に準ずる
カンパ	1,022,470	720,000	2023年度実績の714,689に準拠
講演会チケット売上	52,300	60,000	
応援団等物品販売益	163,547	170,000	前年度に準ずる
控訴費用負担金	350,000	0	2024年度で終了
受け取り利子	143	143	
前年度繰越金	855,668	1,631,391	
合計	3,096,128	3,281,534	

支出

科目	2024年度実績	2025年度予算	備 考
弁護士費用	500,000	500,000	弁護団への謝礼的支払い (報酬ではない)
郵送料	364,710	400,000	裁判ニュース等の郵送
印刷費	198,416	250,000	裁判ニュース等の印刷
賃借料	27,270	30,000	会議室借り上げ
交通費	177,449	200,000	他団体との連携・情報収集 弁護士の福岡市往復
消耗品費	42,819	50,000	印刷用紙等
講演会費	107,423	200,000	講師への謝礼・旅費 会場使用料
その他	46,650	40,000	ホームページ維持費 いのちのわ協賛金
資料	0	10,000	
地域活動助成費	0	100,000	
証人出廷費用等	0	600,000	証人の出廷を予想
予備費	0	901,534	
次年度繰越金	1,631,391		
合計	3,096,128	3,281,534	

引当金会計 (2024年度に同じ P3 参照のこと)

2025 年度役員

原告団代表	松本文六		
弁護団代表	徳田靖之	岡村正淳	河合弘之
応援団代表	奥田富美子	宇都宮陽子	
裁判の会事務局長	森山賢太郎		
会計担当	池松清		
会計監査	葛城知明	阿南祐子	

## 中山田さつき原告団共同代表への追悼のことば

# さつきさん、ありがとう

### 松本文六原告団共同代表より

中山田さつきさんは5月31日にお亡くなりになりました。ともに共同代表をしている私は悲報に接し自失しました。彼女は病気のため定期的な治療を受けられていましたが、事務局会議にはいつも元気な姿を見せ積極的な意見を述べられていました。

2024年3月7日大分地裁での判決後の集会で彼女は「福島のことを忘れたのか！四電の主張のコピーそのものだ」と発言されました。彼女は判決の問題点を的確に指摘されました。さらに彼女は「私たち原告は、原発が過酷事故を起こせば放射線による人間破壊と自然破壊を起こす。広島・長崎の原子爆弾による放射線障害を私たちは二度と再び受けたくないために、そのためにこの裁判を起こしたのです！」と、この裁判の原点を突いた考えを陳述されました。これは彼女の心からの叫びでした。

私たち原告は、この叫びを大分裁判の会の法廷でのたたかいとともに、核分裂を共有した核兵器と原発を止めさせる運動として展開すべく行動する礎として進みたいと思います。

中山田さつきさんに心からのご冥福をお祈りし、追悼のことばとさせていただきます。

### 弁護団より

中山田さつきさんの逝去の報を受けて、私たち弁護団はここに謹んで追悼の言葉を申し上げます。

2016年、裁判の会が結成され、早9年が過ぎようとしています。相手が電力会社だろうと、我々が常に勝利を確信して原告代理人席に座り続けられた理由は、まずは様々な背景を有する500名以上の大分県民が原告として立ち上がり、さらに多くの大分県民がそれを支え、弁護団を叱咤激励し続けてきたからです。そして、この多数の大分県民を「原発を必ずや差し止める」という決意で団結させ、長期の訴訟にも耐える強固な運動体の中心にいた方、それがあなたでした。あなたは、スリーマイル以来長い間、原発とたたかってきました。そのあなたの言葉が私たちを力づけました。このことに深い感謝の念を覚えます。

あなたは、病魔が発覚してからも、何ら変わった素振りを見せずに弁護団会議に出席し、私たちに市民の考えを注ぎ込み続けました。そのお陰で、弁護団は、複雑怪奇な科学論争に沈むことなく、一市民の健全な常識を前提に据えて、意見を出し続けられたのです。誰もがそうあるべきと

願う中、ややもすれば流されていく現実にあって、「原発を止めよう」と筋を通し続けたあなたの姿勢に、弁護団一同敬意を表せざるをえません。

あなたは法廷での証人尋問でお住まいである杵築市大田村について問われ、次のように答えました。「何にもないと言われれば、何にもないです。スーパーもコンビニもなんにもないです。だけど、何にもないように見えて、本当は、住んでみると分かるのですが、何でもあるところなんです。」何も無い暗闇のように見えても、本当は豊かな光が息づいていることを教えてくれました。あなたがその光そのものです。



私たち弁護団は引き続き原発の完全なる停止に向けて、一步一步あなたと共に歩むことを決意して、追悼の言葉といたします。

### うつのみや陽子応援団共同代表より

「さつきさんとともに。」

さつきさんとは、脱原発運動の中で出会った。私が娘を授かり加入したグリーンコープ生協で脱原発学習会に参加し、改めて原発の危険性を認識。「子どもたちの未来に原発を手渡さない」と運動に参加するようになった。そして、運動の最前線にはいつもさつきさんがいた。ウエーブがかった髪をなびかせデモの先頭や学習会などでマイクを握るさつきさんの言葉は力強く、いつも私たちを鼓舞してくれた。

その姿は、まるでライオンのようで、こころ密かにリスペクトしていた。

初めての脱原発デモ、恐る恐る参加した私を大きな笑顔で包み込んでくれたのも五月さんだった。強さとやさしさを併せ持ち、誰へだてなく心を寄せるさつきさんだからこそいつもさつきさんの周りには多くの人が集まっていた、その輪の一員になれたことが何だか誇らしくあったことを思い出す。

伊方原発をとめる大分裁判の会立ち上げ時には、「あなたの母親としての視点が必要だから」とお声かけくださり、応援団の共同代表を努めるよう勧めてくれた。裁判の会では、様々な場面で「うつのみやさんどう思う？」と尋ねてくださり、会のメンバーの中では年少の私が意見を出しや

すいよう気遣ってくれていた。年齢や経験の有無にかかわらず相手の意見や言葉を大切に下さるさつきさんの姿勢に多くを学ばせてもらった。

2016年8月19日 伊方原発3号機が多くの反対の声を無視し再稼働した際、さつきさんは「生活を根こそぎ奪う原発の過酷事故を前提として、原発が再稼働される、そのことが根本的に間違っています。私たちには『止められ

る』という『希望』があります。『原発を止めろ』の声を裁判所に！頑張りましょう！」と力強く声をあげられた。

さつきさんの遺志は、今、私の中にある。導いてくれたさつきさんの「声」を道標に、さつきさんが授けてくれた「希望」を胸に、前を向いて歩いていこう。さつきさんとともに。

## 「さよなら原発」弾き語りLIVE(^ ^

5月18日大分市コンパルホール400 (演芸班 大原洋子)

### 闘いには唄がある

三上智恵監督の映画『標的の島 風(か)かたか』や『戦雲(イサム)』を観ると、ウチナー(沖縄)での闘いには唄や舞いがつきもので、強大な権力の前でも唄や踊りがなかりせば…という気がします。闘いにも唄は欠かせません。

5/18(日)の総会の後に「さよなら原発」弾き語りLIVEを中山田共同代表とともに企画しました。LIVE可能な会場として、いつものホルトホールではなくコンパルホールにしまし

### 中山田さつきさんのリクエスト On the Road

そして中山田さんがリクエストした南正人の2曲を本邦初披露。「On the Road」の8番まである長い歌詞を譜面なしで唄い切りました。

4/18の第2回控訴審を体調不良で欠席し、5/7から入院していた中山田さんの目標は、せめて外出許可を得てその2曲を聴くことでしたが、かなわず、この日のCDを池田さんはすぐ届け、南晃さんが制作した姫野さんのCDは5/26に到着。



池田年宏さん

た。(そのための不幸な間違いが数件発生)誰でも入場できましたが、総会の後でもあり40人ぐらいでした。機器を提供し、担当いただいた葛城知明さんありがとうございました。おかげでよい音響で聴けました。

### ふるさとは原発を許さない

池田年宏さんの「ふるさとは原発を許さない」(我が会の横断幕「ふるさと大分は原発を許さない」とどちらが本家?)と「竜神様のお告げ～伊方原発反対の歌～」は、伊方原発ゲート前でつとに有名です。「九電前の交差点」は、2年前に亡くなった島田雅美さんの姿をほうふつとさせます。

姫野洋三さんは、1994年作、小出裕章さんの講演会の締め流されていた「若狭の海」はもちろんですが、上関原発反対を唄った「スナメリの唄」等、テーマに沿った選曲でした。



姫野洋三さん

翌日お連れ合いが病室へ届け、聴いて「完璧！」と感激していたそうです。その翌日5/28から調子が悪くなり、5/31未明にこの世での仕事を終えられました。ですから、本当にギリギリのタイミングで届いたわけです。通夜・葬儀で流れていたのは、このときの「On the Road」でした。♪そんな無関心こそが今いちばん怖い♪という歌詞が胸に響きます。

皆さんは初めて聞かれる歌がほとんどだったと思いますが、どれもよい歌ですので、Youtubeで探してみてください。歌声喫茶のごとく、一曲ぐらいみんなで唄うとよかったかもしれませんね。

その他、姫野さんが唱った曲目

・コンケンのおじいさん(西岡恭蔵)・ゴルフ場小唄(南正人)・鮪に鯛(高田渡)

アンコール曲 青空(ザ・ブルーハーツ)

# 徳田弁護士連続講演会・最終会報告

6月21日ホルトホール大分1F大ホール（文責 森山）

昨年夏からスタートし、1年近くかけて徳田靖之弁護士の連続講演会全8回を実施しました。徳田弁護士が、長い弁護士活動で繋がりのできた、実に様々な団体が実行委員会を結成し、80歳の記念に“語ってほしい”ことを語って頂きました。ホルトホール大分3階大会議室を毎回ほぼ満席にし、延べ3,000人近い人々に講演を聴いていただきました。最終回となった第8回講演ホルトホール大分1F大ホールの様子を報告します。徳田弁護士は“平和の大切さ”について自らの生い立ち、生き様を語る中で訴えられましたが、冒頭の約30分を「伊方原発訴訟」について語りました。誌面の関係で一部を紹介させていただきます。



たたかう決意を述べる徳田弁護士と光の園のみなさん

## 「原子力平和利用」という神話に毒されていた私

私たちは“原子力の平和利用”という誤った考え方にどっぷり浸っていました。

1954年にアメリカが世界で初めてビキニ環礁で水爆実験を行いました。この時に日本の漁船「第5福竜丸」が被曝し、乗組員の久保山さんが亡くなりました。世界で唯一の被爆国である日本の漁船が水爆実験に巻き込まれて被曝した、ということでした。こんなことがあっていいのか、私はまだ小学生でしたが一人ひとりが我が事として、この問題にどのように対処するのかということが問われました。その中で声を上げたのが東京都杉並区のお母さんたちでした。1955年にお母さんたちの始めた署名が日本中に拡がっていきます。全国で3259万筆、当時の15歳以上の人口の6割、そういう運動になっていったわけです。それが今日の原水禁運動の出発点になったわけです。原子力を戦争のために使うことを絶対に許してはならないという声が全国に拡がっていきました。私も弁護士として活動するにあたって、しっかりとそういう考えを身につけることができました。

原子力発電所をつくるという運動は“平和のため”だ、ということで世界各地で次々と建っていきました。当時の日本では水力発電で大きなダムを造ることが“自然破壊”につながるのではないかと、火力発電は地球温暖化をもたらすのではないかと。原子力発電は平和利用という大きな目的だけでなく、火力発電や水力発電の持

つ欠陥をおぎなうものとして渴望されました。まさに原子力平和利用という神話に毒されていったわけです。

## 福島原発事故の衝撃

今から約10年前、2011年4月熊本・大分地震を皆さん覚えていますか。私自身、立ってられないほどの揺れにおそわれ、食器類が音を立てて割れる状況を経験して、伊方原発で過酷事故がおこれば、大分に住んでいる自分たちはどうなるのかということを実感的に感じないわけにいかなかったのです。それで伊方原発をとめる裁判に参加することになったのです。

その時に考えたこと。

### ① 被害は地方（田舎）で起こる

原発は絶対安全だ、と電力会社は言うけれど東京や大阪、名古屋、福岡、横浜などの人口が密集している所の近くには絶対につくらない。どこにつくられるのか。四国電力は伊方という離れた所につくっています。電力会社は、絶対安全だとは言えないことを知ってるが故に、人口が少ない地域を狙って、そういう地域に原発をつくった。そうすると被害にあうのは大都会の人たちではないのですね。

### ② 地方に住む者たちが、自らの課題として取り組むことこそが求められるのではないかと

伊方原発で福島と同じように被害にあったら、同じです。東京の弁護士から伊方原発をとめる裁判に参加要請があった時に、ふるさとをこよなく愛するのであれば、東京の弁護士たちに任せておけない。大変な仕事であるけれども、（差止仮処分たたかいは東京の弁護士たちから学びながら）その後は大分の弁護士だけでたたかいを担う体制をつくり今日に至っています。

## 伊方原発大分訴訟の特徴、大分方式

### 一多数の原告と原告を支える支援の輪一

決して原子力について詳しくはない私たち大分の弁護士が、四国電力という大きな企業相手にどうして裁判を

やるのか。それは圧倒的に多くの人たちにこの裁判が支持されているということがあります。原告数は569名（一審の大分地裁裁判）。私は大分県を相手に沢山の裁判をやってきたので、大分県の各市町村の職員の方で私に快く思っていない人が、「徳田さん、原発裁判頑張ってるんだ、という声をかけてくれる、そういう経験を何度かしています。大分に住む色んな多くの方たちが背中を押してくれているんだ、ということを実感しています。

原子力について、難しいことがわからない、私たちなりにやれるような裁判を考えました。実は裁判官も私たちと同じように原子力発電所の仕組みなどわからないのです。

だから、電力会社は色んな研究者を動員して難しい議論をふりまく。それこそ証拠書類を何百というほど（積み上げれば相当な高さになるほど）出してきました。難しくくてわからないという形で裁判官に迫ってくる。

そうすると多くの裁判官はどういう風に言うかという、「あまりに高度な科学的なおかつ専門的な内容であるから、裁判所が判断するのは難しい」「専門家の判断にまかせるべきで、極端に誤りであることがはっきりする場合でない限りは専門家の言うとおりに」として判断することを避けてしまうのです。

私たちが「大分方式」と言っているのは、これまでの

### 年会費未納入の方へ

例年より定期総会を早めたことで、年会費を早めにお願ひしています。未納の方へのお願ひです。（納入済みの方には不要です、申し訳ありません）

年会費：2,000円（一世帯につき）

【郵便振替】

口座名 伊方原発をとめる大分裁判の会

口座番号 01710-7-167636

### そうめん物販報告

中山田さんと2021年から始めた夏季そうめん物販。彼女の人脈のおかげもあり、毎年安定して売れてきました。今年は神奈川、広島、香川からもご注文をいただき、利益17万4,755円を得ました。今夏もご協力まことにありがとうございました。利益は裁判の会活動資金として有効活用させていただきます。（事務局：大原）

### 控訴審報告会（第2回）ユーチューブUP



裁判の会ホームページより、すぐに見ることができます。またはQRコードにより即、映像がでできます。

4月18日第2回控訴審報告会（福岡県弁護士会館）

原発訴訟で陥りがちなあまりに高度な論争でなく、私たちが、つまり原子力や原子力発電について十分な知識を持っているとは言えない私たちが「わかる」裁判、それをやることを皆で話しあったわけです。私たちの「わかる論点」で裁判所の判断を求める、ということです。

原告一人ひとりの思いを裁判官に伝えるという点で、原告意見陳述を重視しています。裁判というのは「人間の営み」であると思っているので、裁判官の心を大きく動かすということです。

ただ残念ながら、裁判官というのはどういう人たちなのか、あえて申し上げると「忘れっぽい」ですね。あの福島原発事故の直後、原発問題を担当することになった多くの裁判官たちは緊張して真摯に裁判に臨みました。そして裁判官たちは自分が担当している裁判に、世間の人たちがどれほど関心を持っているかということにとっても敏感です。かつては原発はやめるべきだと考え方になっていたあの時期から1年たち、5年たち、10年と経過することで、地球温暖化を阻止するには原子力発電を利用すべきというような政府や電力会社の巧妙な宣伝によって、その声の割合が少なくなっているのです。裁判官はこれらに敏感です。世論の動向に敏感な裁判官たちは原発訴訟に冷淡になってきています。若い世代に闘いをどう伝え、つないでいくかが課題です。（略）

### 台湾アジア初「脱原発」達成

毎日新聞 2025.5.17

台湾本島の南端に近い台湾屈指のリゾート地のそばにある台湾第3原発（加圧水型原子炉2基出力各95万キロワット）が1980年代に稼働を開始。40年の運転期限を迎えて、1号機は2024年4月に停止し、2号機も5月17日に運転を終了する。

台湾では1985年に3原発（計6基）体制が確立。経済部（経済省）が所管する台湾電力が運営し、一時は発電量の5割以上を占めた。だが2011年の東京電力福島第一原発事故などを契機に反対運動が盛り上がった。

2013年の第4原発の建設反対を求めるデモには20万人以上が集結し、国民党政権は翌年建設凍結を決定。2017年民進党の蔡英文政権下で電気事業法が改正され、運転期限を迎えた原発を順次停止させる形で、2025年までの脱原発が法制化された。

「原発が軍事目標になることはウクライナ侵攻で明らかになった。再稼働は絶対にやめるべきだ。」5月12日夜、台北市立法院（国会）前で行われた反原発集会には数百人が集まり、声を上げた。長年追求してきた「脱原発」を間近にしながら、むしろ会場には喜びよりも危機感が漂う。

